

一、世界資本主義と労働階級

世界の資本主義は最近一時的安定をした。それは労働階級を一層の弱体化と極端な権取とによつて齎らしたものである。然しながら此の一時の安定は鞏固なものではない。その事は世界各國の政治的動搖によつて知られるが出来る。フランス、ドイツの内閣が出来たり倒れたりすることはいく

此の事情を物語るものである。労働階級の隷属化は益々甚だしくなつた。ドイツでは十時間、十二時間働かされ、賃銀は戦前よりも安い。何故かうしたドイツに於て労働者の奴隷化されたとおろかと思ふに、労働組合が本来の職能を失ひ、官僚化し協同

化してしまつてゐるからである。イギリスの状態を見れば、資本家階級は労働階級に極度の壓迫を加へてゐる。但し此の国の労働組合は最近進歩的意志を明確にして來たのである。昨年の總山の争議の如く組合の集中的統制によつて、資本の飽きなき暴虐を喰ひ止めることが出来る。

アメリカに於ては、經濟的には好景氣であるが、労働者の賃銀、時間は甚だ悪く、なせさうなつたかと云ふに、此の國では労働組合の統一といふものが幾く、ゴンパース主義が組合を指導してゐるからである。

二、日本の資本主義と労働階級

日本に於ては戦後好景氣以來、賃銀は減額され、時間延長となつた